

令和3年度福岡市歯科口腔保健推進協議会（第2回） 書面開催結果

1 開催日時

令和4年3月10日～令和4年3月25日

2 開催場所

書面開催

3 議題

「オーラルケア28（にいはち）プロジェクト」アクションプランについて（第1号議案）

4 意見書意見

【アクションプランに関する意見】

（九州大学：山下委員長）

「6. 評価指標」について、生涯28歯を掲げて、現在の自身の歯を1本も失わずに維持することをプロジェクト目標とするのであれば、歯科保健情報が取得可能な範囲の高年齢帯についても「喪失歯がない者の割合を増やす」指標を設定することが妥当であると思われる。

一方で、データ出典の歯科節目健診の結果は、現状では受診率が極めて低く、健康意識が高く口腔の健康状態が良好な者がより多く受診していることを反映している可能性があるため、今後プロジェクトの各取組が発展して受診率が向上した場合、口腔保健に無関心な者も含めて受診率が増加する可能性が高く、市民全体の健康状態が改善しているにも拘わらず、目標値に変化がない、もしくは低下することがあることも想定しておく必要がある。

（福岡市歯科医師会：神田副委員長）

「6. 評価指標」における「1年に1回以上歯科医院で定期健診を受診する者の割合」の目標値が低いのではないかと。令和8年度までの重点目標であり、目標達成のための事業展開を加味すると、やや高めに設定してもよいと思われる。

【その他自由記載欄】

（福岡市歯科医師会：神田副委員長）

小学校での歯科・医科含めた健康教育を義務化してほしい。

（福岡市養護教諭研究会：草場委員）

全ての乳幼児・学童期の子ども達が、より効果的な歯磨きについて、実践的に学ぶ機会を持つことは、セルフケアの習慣を根付かせるために、効果的な取組だと思います。現行の小学校における歯磨き指導のさらなる拡充を望みます。

学校における健康教育において、「むし歯・歯肉炎の予防」に取り組むときに、「むし歯・歯肉炎になったのは、あなたがちゃんとしなかったからだ」（自己責任）というメッセージになっていたのではないかと、自身の反省を含め感じるところです。全世代の人が自らすすんで、治療やプロフェッショナルケアを受けることができるような取組みにしていくことができると考えます。

(福岡市食生活改善推進員協議会：下川委員)

オーラルケア28プロジェクトは、具体的に示してあり、分かりやすくとても良いと思います。治療よりも予防を大切にすること、基本的には家庭での指導が大事だと思いますが、保育園・幼稚園・小学校での歯みがき指導の働きかけを行うことでの予防への取組は、とても良い取組だと思いますので、是非続けて行って欲しいです。

5 結果

第1号議案を保留とし、委員意見を踏まえてアクションプランの修正案を作成したうえで、再度、委員間での意見調整を行う。